

## 平成 25 年度 総合問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

**1** (100点)

問 1 (70点)

### 【解答のポイント】

- ・ グラフの変化を正確に読み取れているか。
- ・ 表の数値に触れているか。
- ・ 日本語として、正しい表記がなされているか。

### 【解答例】

主食の「米」の消費支出は、ピーク時の昭和 60 年の 6,233 円から平成 23 年には 2,223 円と約 3 分の 1 に減少した。しかし、「一般外食」は 2,062 円から年々増加し、平成 9 年には 12,050 円となり、約 6 倍になった。その後も 10,000 円以上であり、消費支出が最も多い。「調理食品」は昭和 45 年 1,000 円以下から年々増加し、約 8 倍になり、消費支出の第 2 番目である。「菓子類」は 2,000 円弱だったのが平成元年ごろから 5,000 円前後で推移している。「パン」の消費支出は約 500 円であったものが、緩やかに上昇を続けており、特に平成 22 年、23 年には「パン」が「米」を上回っている。(290 字)

問 2 (30点)

### 【解答のポイント】

- ・ 問 1 で指摘した変化について述べられているか。
- ・ 食生活に関する自身の考えが述べられているか。
- ・ 日本語として、正しい表記がなされているか。

### 【解答例】

外食、調理食品、菓子類の消費支出が伸びている。これらは一般にエネルギーや脂質、塩分が高く、野菜などが少ないため、食事のバランスや栄養が偏り、健康を害し、生活習慣病になる可能性がある。これに対して、米を中心とした日本型食事を家庭で作ることは、バランスの良

い食事をとることにつながる。今後は、女性の社会進出が進む中、個々人の調理の知識・スキルを高め、家族で調理分担することが大きな鍵を握ると思われる。(199字)

**2** (100点)

問1 (60点)

**【グラフ・解答のポイント】**

- ・縦棒グラフ，横棒グラフ，帯グラフなどのいずれかで正確にグラフを描いているか。
- ・数値を正しく示しているか。
- ・2006年と2012年の変化，男子・女子の違いを的確に示しているか。

**【グラフから分かること・解答のポイント】**

- ・日本語として，正しい表記がなされているか。

**【解答例】**

食事の支度，手伝いの程度が2006年と2012年の間で大きく変化した。「毎日」が2006年では男子5.5%，女子6.0%から，2012年には男子16.0%，女子19.0%と3倍以上に増えた。また，女子の方が男子より手伝いをする程度が高い。「まったく行わない」が2006年男子62.0%，女子17.0%から，2012年男子29.5%，女子12.0%と大きく減少し，特に男子では半分以下になっている。(199字)

問2 (40点)

**【解答のポイント】**

- ・数値の変化を正確に読み取れているか。
- ・日本語として，正しい表記がなされているか。

**【解答例】**

2012年には，2006年よりも，食についての関心が高まっている。特に男子の食についての関心の高まりが顕著で，「料理の作り方」「おいしい食品・店」「からだに良い食べ物」「栄養」「正しい食べ方，マナー」「食材の特徴，旬」「産地」「野菜やお米の作り方」では2倍以上になっている。「料理の作り方」への関心が最も高く，2006年男子26.5%，女子46.0%から，2012年男子51.5%に倍増し，女子72.0%になった。一方，「特にない」が2006年

男子 55.0%, 女子 22.0%から, 2012 年男子 18.5%, 女子 4.0%と, 男子では 36.5%減少し, 女子でも 18.0%減少している。(291 字)